

G 5・6 「福住学」学習指導案

天理市立福住小学校 教諭 堀川 淳司

1. 単元名 「オーガニック米作り～4年目のチャレンジ～」 ～耕作放棄地と地域の再生をめざして～

2. 単元の目標

- これまで4年間取り組んできた本校独自カリキュラム「福住学」の学習を振り返り、福住校区が豊かな自然に恵まれていることに気づくことができる。(知識及び技能)
- 古くから福住校区で行われてきた米作りを体験し、福住校区が歴史的・文化的環境、人的資源に恵まれていることに気づくことができる。(知識及び技能)
- 福住地区の米作りの現状を、体験活動を通して実感することを通し、耕作放棄地と地域を再生するために自分たちができる活動を行う。(思考力・判断力・表現力)
- 地域の方や行政と連携しながら、福住地区で先進的に行われているオーガニック米作りを体験することを通して、今後G 5～9の「福住学」で、より意欲的に福住地区についての学びを進めることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、奈良県天理市福住地区の米作りについて、体験活動を重視した学習を進める。奈良県北東部の大和高原（標高 500～600m）に位置する福住地区では、古くから米作りが行われてきた。しかし高齢化や後継者不足、人口の減少などにより、耕作放棄地が増えてきている。

本校では、以前よりG 5で米作りの体験学習を行ってきた。しかしそれは「田植え体験」「稲刈り体験」が中心の「イベント感」が否めない取り組みであった。

4年前、当時のG 5・6が「0からの米作り」に取り組んだ。学校近くの耕作放棄期間1年の田んぼをお借りし、無農薬、化学肥料不使用、機械もできるだけ使用しないことを目標に米作りに取り組んだ。

その結果2022年度は30kg、2023年度は20kg、2024年度は10kgの米を収穫することができた。米の収量は、開墾当初より年々低下している。米作りに詳しい地域の方に聞くと、耕作放棄期間が1年の田んぼをお借りしたことから、「もともと水田に残っていた肥料成分が、徐々に抜けていったからであろう」とのことだった。

一方、天理市は2024年3月に「オーガニックビレッジ宣言」をした。福住地区はそのモデル地区になっており、2024年から福住地区でオーガニック米作りがスタートしている。

そこで子どもたちが、地域の方や行政の方の指導・助言を頂きながら、福住地域でスタートした「オーガニック米作り」にチャレンジすることにした。

さらに本学級には、米粉を材料にしたパンやピザ作りを熱心に研究されている保護者がおられることがわかった。そこで今年度は、収穫したオーガニック米を、米粉に加工したパン作りやピザ作りにもチャレンジすることにした。

(2) 児童観

本校は、小学部（G 1～6）と中学部（G 7～9）を合わせて全校児童生徒 89名の小規模校である。そのうち約4割の児童生徒は、特認校制度を利用して天理市内各地からスクールバスで通学している。また約3割の児童生徒は、福住地区に移住してきた家庭の出身である。そして古くから福住地区に居住している家庭の児童生徒は、約3割である。

今回「オーガニック米」作りに取り組むG 5の児童は、小学校と中学校が統合された2021年度から本校独自カリキュラム「福住学」を学んでいる。つまり入学当初より「福住学」を学んでいる、いわば“福住学第1世代”である。

何事にも大変意欲的で、自分の意見や考えをしっかりともち、それを発表することができる。

(3) 指導観

「福住学」は、本校でSDGs学習を進める中核的な時間である。「福住学」は、「福住学」の時間だけで学ぶのではない。すべての教科・領域の学習の時間だけでなく、学校におけるすべての体験活動を通して、さらに児童の家庭や地域での体験活動も含めて学ぶものと捉えている。

そのため小学部では、毎朝「サークルタイム」の活用、新聞の活用をしている。「サークルタイム」は、毎朝20分間担任と児童が、車座に座って思い思いに家庭や地域でのできごと、新聞を活用して社会のできごとなどを思い思いに語り合う1日の「アイドリング」の時間である。一人ひとりが自分の気持ちを言語化し、なかまがそれを受け止める。

新聞を活用した取組は、2019年度から新聞販売店様のご協力のもと実施している。今年度は毎朝34部の朝刊を提供していただき、進学を控えたG6とG9には一人1部、他の学年には教室に1部、さらに昇降口前の新聞コーナーと職員室に各1部を配布している。活用の仕方は担任の裁量に任せる部分が多く、例えばG9では毎日給食後が「新聞タイム」となっている。G5では、クラスに1部に配布する新聞を大型テレビに映し出して、新聞の記事解説をしている。また新聞を黒板に掲示し、自由に新聞記事を読めるようにしている。

筆者は、2021年度より小学部の「福住学」担当をしており、昨年まで理科専科（生活科の一部を含む）として小学部全学年の授業を担当していた。しかし今年度、久しぶりに学級担任をもつことになった。そこで「福住学」担当が、「学級担任だからこそできる学び創造」を、子どもたちと目指すことにした。

(4) ESD との関連

① この題材で働かせるESDの視点(見方・考え方)

○相互性 人口の減少が進む福住地区において、子どもたちが世代を超えた人たちとのかわりを通して「福住のすてき」に気づき、福住地区を「将来も住み続けたいふるさと」、「将来里帰りしたいふるさと」、「将来的にも関わり続けたいふるさと」にする必要がある

○有限性 地域で耕作放棄されている水田を活用することが、持続可能な社会を維持していくうえで有効な手立てである

② この学習を通して育てたいESDの資質・能力

○批判的に考える力(クリティカル・シンキング)

現在、日本で生産されている米は、多くの農薬・化学肥料が使用されていること、効率的に米を生産するには、どうしても農薬や化学肥料が必要であることなどを知り、これらの情報が「本当にそうなのか」「本当にこれでいいのか」について考える力を育てたい

○多面的・総合的に考える力(システム・シンキング)

学校の近くの水田で学習する経験を通し、テレビ・新聞・インターネット等で報じられている環境問題(耕作放棄地の拡大、農業人口の減少、残留農薬の問題など)が、自分の日常生活と密接に繋がっていることを実感させたい。そして、グローバルな環境問題と自分自身との関連に気づく力を育てたい

○コミュニケーションを行う力

地域の米作りに関係する取り組みに関心を持ち、多くの地域の方と交流をもつことを通して、ICT機器を介さない「人対人のダイレクトなコミュニケーション力」を育てたい

③ この学習を通して育てたいESDの価値観

○自然環境、生態系の保全を重視する(生物多様性の重視)

「オーガニック米」を栽培する田んぼで多種多様な生き物に触れたり、観察したりすることを通し自然環境の豊かさに気づく

○人権・文化を尊重する(文化多様性の尊重)

・自分たちが育ってきた福住地域の文化的環境の歴史的価値・豊かさに気づく

・地域の耕作放棄地で収穫した「オーガニック米」が、新たな福住の基幹産業になりつつあることに気づく

○幸福感に敏感になる。幸福感を重視する

- ・自分の心を身体と対話しながらオーガニック米を食べることを通し、自分の心と身体をいたわることの大切さに気付く
- ・自分たちが1年間かけて栽培・収穫したオーガニック米を食べる人の気持ちを想像しながら、パッケージやキャッチコピーを作ることを通し、人を思いやることの大切さに気付く

達成が期待されるSDGs

- 目標11 住み続けられるまちづくりを
- 目標15 陸の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①福住地区における米作りの現状について知っている。 ②「オーガニック米」を作ることができる。 ③「福住学」で学んだSDGsの内容を理解している。	①「オーガニック米」作りを通し、地域課題を解決する方法を考えている。 ②「オーガニック米」のパッケージやキャッチコピーをなかまと意見交流を重ねながら作成している。	①福住の「オーガニック米」の魅力に気づき、お米の「すてき」を多くの人に広げようとしている。 ②今回取り上げたお米だけでなく地域や社会における諸課題を解決するための取組に、積極的に参画している。

5. 単元の指導計画（全46時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価(△) 備考(・)
1	<土作り作業> 1 稲刈り直後の田んぼを耕起する 2 専門家を招聘し、土作りの大切さを知る	1 「米作りは、土作りから」という地域の方の助言の意味を考える 2 天理市主催の講座に、子どもたちも参加し、専門家の指導を受ける	△ア1・2 (知・技) ・ワークシート
2	<籾蒔き作業> 1 昨年度収穫した籾を、水につけて吸水させる 2 食塩水を作り、塩水選をする 3 育苗箱に籾を均等に播く 4 透明のビニルを被せ、育苗箱を保温苗代に入れる 5 病気などで苗が全滅した理由と今後の対策を考える	1 発芽を促すための作業であることを確認する 2 良い種籾を選別するために必要な作業であることを確認する 3 育苗箱一枚あたりの種籾を知る。 4 標高が高い福住地区では、保温苗代が必要なことを知る 5 地域の方に苗を譲っていただけることを伝える	△ア1・2 (知・技) ・ワークシート
3	<田起こし> 1 スコップを使って、手作業で田起こし作業をする(2回)	1 深く耕すと、不要な雑草の発芽を促すことになることを知る	△ア1・2 (知・技) ・ワークシート

4	<p><代掻き></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 田植えに備えて、代掻きを手作業とする 2 鍬やレイキだけでなく、昔の農具である馬鍬を活用する 	<ol style="list-style-type: none"> 1 田んぼに水を入れて土の表面を平らにならす作業であることを知る。 2 馬鍬は、福住地区の方が、昔実際に使っておられたものであることを知る 	<p>△ア1・2 (知・技) ・ワークシート</p>
5	<p><田植え></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 譲っていただいた苗はポット苗で、オーガニック米の栽培に適していることを知る 2 植え付けの際、ポット苗は根を切ることがないことに気づく 3 田んぼに生息する様々な生き物も観察する 	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分たちが育てようとした苗と地域の方に譲っていただいた苗の違いに気付く 2 地域の方に譲っていただいた苗を使って、手作業で田植えをする 3 定期的に苗の生育状況を観察する 	<p>△ア1・2 (知・技) ・ワークシート</p>
6	<p><除草></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域の方が導入されたチェーン除草装置をお借りし、草取り作業をする 2 細かいところは、手作業で草取り作業をする 3 必要に応じて差し苗を行う 	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域の方が「オーガニック米」作りのために、手作りされた装置であることを知る 2 無農薬での米作りでは、除草作業が大変なことを体感する 3 予備の苗を活用する 	<p>△ア1・2 (知・技) ・ワークシート</p>
7	<p><稲刈り></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 のこぎり鎌を使って、手作業で稲刈りをする 2 刈り取った稲は、束ねて稲架掛けする 3 稲架掛けした稲の水分量を、毎日測定する 	<ol style="list-style-type: none"> 1 田んぼの中の雑草がほぼゼロであることに気付く 2 天日干しが、お米をより美味しくすることを知る 3 算数の平均や資料の活用の単元と関連させる 	<p>△ア1・2 (知・技) ・ワークシート</p>
8	<p><土作り></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 稲刈り直後の田んぼをスコップを使って手作業で起こす 2 スコップを差し込む深さに注意する 3 来年度米作りをする G4 の子どもたちにも作業内容を伝える 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「米作りは、土作りから」という言葉を思い出し、来年度の米作りをスタートする 2 昨年度深く耕した場所には、多くの雑草が発生したことを思い出す 3 希望があれば G4 も、G5・6 の作業に参加する 	<p>△ア1・2 (知・技) ・ワークシート</p>

9	<p><脱穀・選別></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 昔の農具足踏み脱穀機を使って手作業で脱穀をする 2 昔の農具唐箕を使って、手作業で選別作業をする 3 時間内で脱穀・選別できない籾は、地域の方に作業を依頼する 	<ol style="list-style-type: none"> 1 足踏み脱穀機は、福住地区の方が実際に昔使っておられたものであることを知る 2 学校で購入した唐箕は、昔の農具の仕組みと同じであることを知る 3 機械化により、時間や労力がかからないようになったことを体感する 	<p>△ア1・2 (知・技) ・ワークシート</p>
10	<p><米作りの結果を知る①></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 籾摺り・色選(石などの異物を排除すること)後の収量が、玄米で約52kgの収量があったことを知る。 2 田んぼの面積をメジャーを使って実際に測定する 3 日本の単位面積あたりの米の収量を調べ、自分たちの田んぼの収量と比較する 	<ol style="list-style-type: none"> 1 1年目の収量が約30kg、2年目の収量が約20kg、3年目の収量が30kgであったことと比較する 2 算数科の図形の面積の学習と関連させて田んぼの面積を測定する 3 算数科の単位あたりの大きさと関連させて、米のでき具合を算出する 	<p>△ア3 (知・技) ・ノート</p>
11	<p><米作りの結果を知る②></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 収穫した米を実際に持ち上げて、1年間の頑張りの成果を体感する 2 JAに依頼した食味検査値について知る 	<ol style="list-style-type: none"> 1 米の収量が昨年度の約5倍になったことを知る 2 米の食味検査値が82で高評価であったことを知る 	<p>△ア3 (知・技) ・ノート</p>
12	<p><米作りの1年を振り返ろう①></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 デジタル作品を各個人で作成し、米作りの1年を振り返る 2 作品の作成を通して、情報発信のスキルを高める 	<ol style="list-style-type: none"> 1 こどもエコクラブのエコ活コンクールにデジタル作品を出品する 2 Canvaやロイロノートを活用して作品を完成する 	<p>△イ1 (思・判・表) ・作品</p>
13	<p><米作りの1年を振り返ろう②></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 壁新聞をチームで作成し、米作りの1年を振り返る 2 新聞の作成を通して、見出しの付け方や記事の書き方を身につける 	<ol style="list-style-type: none"> 1 こどもエコクラブのエコ活コンクールに壁新聞を出品する 2 国語科の表現の単元と関連つける 	<p>△イ1 (思・判・表) ・作品</p>

14	<p><お米パーティー></p> <ol style="list-style-type: none"> 1年かけて収穫した「オーガニック米」を炊飯する 1年かけて発酵させた味噌で、汁を作る 米作りでお世話になった方を招待する 	<ol style="list-style-type: none"> 家庭科の調理実習と関連させてご飯と味噌汁を作る G3・4の時に大豆を栽培し、味噌作りをしたことを思い出す 招待状を送付し、お礼の気持ちを伝える 	<p>△ウ1・2 (主体的) ・招待状</p>
15	<p><マフィン・ピザパーティー></p> <ol style="list-style-type: none"> 家庭科室のオーブンで、米粉マフィンを作る 校庭に完成したピザ窯で、米粉ピザを焼く 米作りでお世話になった方を招待する 	<ol style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーに、米粉料理に詳しい保護者を迎える 中学部が作成したピザ窯に、福住の間伐材の薪を焚べる 招待状を送付し、お礼の気持ちを伝える 	<p>△ウ1・2 (主体的) ・招待状</p>
16	<p><パッケージ作成></p> <ol style="list-style-type: none"> 自宅に持ち帰るオーガニック米のパッケージを作成する 完成したオーガニック米を持ち帰る 	<ol style="list-style-type: none"> 図画工作の時間にパッケージの絵とテキストを各個人で作成する。 家族にオーガニック米を気持ちやエピソードも添えて手渡す 	<p>△イ2 (思・判・表) ・作品</p>
17	<p><米ぬかボカシ作り></p> <ol style="list-style-type: none"> 来年度に向けて、ゲストティーチャーを招聘し、米ぬかボカシを作る 材料の混合が終了した米ぬかボカシを熟成する 米ぬかボカシの熟成過程を観察する 	<ol style="list-style-type: none"> 米ぬかボカシの散布が、オーガニック米栽培に有効な理由を理解する 校内に完成した堆肥舎を活用する 毎日米ぬかボカシの温度などを観察・測定する 	<p>△ア1・2 (知・技) ・ワークシート</p>

6. 成果と課題

2025年の米作りは、2024年秋、旧G4・5による「田起こし作業」からスタートした。昨年度、地域で「オーガニック米」栽培をされている農家の方や天理市が招聘した土作りの専門家から「米作りは、土作りから」という助言をいただいたからである。

本校では以前、毎年4月にG5・6の担任が決まってから、米作りの取り組みがスタートしていた。しかし昨年度から、G4が米作りの様子を見学をするようになった。すると子どもたちが「先生、手伝ってもいい？」や「早くG5になってお米作りしてみたいなあ」という発言が聞こえてきた。G4の子どもたちにとって、次年度の米作りに向けた大きな動機づけとなり、本校がホールスクールで「福住学」を進めるうえで、大きくプラスに作用したと考える。

一方、今年度一番の誤算は、育苗箱の苗が全滅したことである。5月の連休明けに「今年の苗作りは失敗」と判断した時は途方にくれた。しかし「オーガニック米」作りに取り組んでいる地域の方に、苗を提供していただけることになった。このことが、子どもたちが、福住地域で進められている先進的なオーガニック米栽培に参画するきっかけとなった。

なお、苗が全滅した原因は、以下であると分析している。

- ① 病気（カビ）が発生したこと
(福住地域でも、苗がカビに全滅した例があった)
- ② 小動物が侵入し、育苗箱が荒らされたこと
(近隣地域でも、野ネズミに育苗箱を荒らされた例があった)
- ③ 育苗中の寒暖差が大きく、保温苗代の温度管理が不十分になったこと
(気温5℃以下では霜の心配、気温30℃以上では高温障害の心配がある)
(ちなみに、4月30日最低気温1.2℃、最高気温21.2℃であった)
- ④ 育苗箱に播いた籾の量(200g)が多すぎた。
(通常1枚の育苗箱に播く種籾は200g、山間部では150gが目安)
(オーガニック米栽培では、105g~120gが目安)
- ⑤ 種籾の塩水選を行わず、悪い種籾が多く混じった
(「塩水選をしなくても、大丈夫だろう」と安易な判断をしてしまった)
- ⑥ 昨年度G5・6で収穫した米を種籾にしたが、その保管方法が不適切であった。
(定温を保てる冷蔵庫保管が良いが、プレハブ倉庫に保管していた)

今年度のオーガニック米作りでは、田んぼの雑草が、稲刈り時にゼロであった。また収量が昨年度の約5倍で、食味検査の結果も大変よかった。以下がその理由であると分析している。

① ポット苗の導入

ポット苗は、これまで学校で使っていた通常の育苗箱で育てた苗ではなく、今年度より福住地区の複数の農家が導入した「みのる式田植え機」専用の苗である。この苗は小さなセルに数粒の籾を播くため、田植え時に根を切ることがない。そのため田植えをした後の稲の活着がよかった。また苗が早期に活着し成長するため、通常の苗より約2週間育成が早く、雑草の育成が阻害されたと考える。実際、田植え直後の稲は、成長に勢いがあると感じた。

② 米ぬかボカシの投入

地域でオーガニック米栽培をしている方から、田植え後に米ぬかボカシを投入することを進められた。そこで、米ぬかボカシを提供していただき、教員が2回散布した。米ぬか成分は、田んぼの水の濁りとなり、雑草の光合成を阻害する。その後、田んぼの底にぬかが沈着し、それが肥料成分となる。

③ チェーン除草

同じく地域でオーガニック米栽培をしている方から、田植え後にチェーン除草をすることを進められた。すでにオーガニック米作りの研修会でその有用性を見ていたので、子どもたちがチェーン除草にチャレンジすることになった。

雑草を除去した際、多くの稲が倒れて心配した。しかし数日後には、稲は元気に直立していた。

2025年の夏は、異常気象で高温の日が続き、全国的に渇水が心配された。しかし本校 G5・6の田んぼの水は、淀川源流に当たる沢から直接引き入れているため、渇水の心配をすることがなかった。そして子どもたちは、「森林は天然のダム」であることを実感することができた。

今回の取組では、学校外の多くの方のお世話になった。「オーガニック米」を栽培されている農家の方には、栽培方法のノウ・ハウの伝授だけでなく、全滅した苗の手配などでお世話になった。さらに慣行農法で米の栽培されている方にも、脱穀作業、籾摺り作業、色選作業、食味検査の依頼などでお世話になった。

さらに持続可能な循環型里山の暮らしの実現をめざした天理市の「大和高原 福住村プロジェクト」や「オーガニックビレッジ事業」などと連携することにより、天理市農林課、一般社団法人「みんなのふるさと」の皆さんの応援を得ることができた。多くの方のご理解やご協力のお陰で、2025年のオーガニック栽培ができたことに感謝したい。

なお、独自カリキュラム「福住学」を進めていくには、資材や消耗品、講師謝礼などの多くの資金が必要になってくるが、昨年度より2年間助成を受けた「ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト」の助成金、「ならコープ環境保全活動」の助成金などを有効に活用することができた。

2025年は、全国的に米が不足し「令和の米騒動」と騒がれた1年であった。また今年も、福住地域で、オーガニック栽培に取り組む農家が大幅に増えた。その一翼を、福住小学校 G5・6の子どもたちが担うことができた。2026年度は、これまでの取組で揃えた資材やノウ・ハウを有効に活用し、オーガニック米栽培を継続したい。またそれらの取組を進めることにより、福住地域の里山の保全・再生に学校や子どもたちが貢献できればと思う。

<オーガニック米作り 2025 ①>



<田起こし作業>



<馬鋤で代掻き>



<みんなで田んぼにジャンプ！！>



<田植え枠を活用した田植え>



<米ぬかボカシの投入>



<夏の除草作業>

<オーガニック米作り 2025 ②>



<出穂>



<稲刈り後の稲架掛け作業>



<水分量の測定>



<足踏み脱穀機で脱穀作業>



<唐箕で選別作業>



<応援の地域の方と記念撮影>



G5・6「オーガニック米作り～4年目のチャレンジ～」
～耕作放棄地と地域の再生をめざして～
＜カリキュラムマネジメント案＞

天理市立福住小学校 教諭 堀川 淳司

＜めざす子どもの姿＞

- 現在、日本で生産されている米は、多くの農薬・化学肥料が使用されていること、効率的に米を生産するには、どうしても農薬や化学肥料が必要であることを知り、これらの情報が「本当にそうなのか」「本当にこれでいいのか」について考えられる子ども
- 学校の近くの水田で学習する経験を通し、テレビ・新聞・インターネット等で報じられている環境問題（耕作放棄地の拡大、農業人口の減少、残留農薬の問題など）が、自分の日常生活と密接に繋がっていることを実感し、グローバルな環境問題と自分自身との関連に気づく子ども
- 地域の米作りに関係する取り組みに関心をもち、多くの地域の方と交流をもつことを通して、ICT機器を介さない「人対人のダイレクトなコミュニケーション力」をもつ子ども

＜関連する学習内容＞

- 米作り G5 社会科
- たねの発芽と成長 G5 理科
- 米の水分量の平均値は？ G5 算数科 平均
- 田んぼで収穫した米の出来具合は？ G5 算数 単位量あたりの大きさ
- 田んぼの面積の測定 G5 算数 三角形や四角形の面積
- 米ぬかボカシ作り（原料の配合）G5 算数 比
- 馬鍬・足踏み脱穀機・唐箕の活用 G6 社会科 江戸時代の農具の発達
- 田起こし G6 理科 てこのはたらき
- 米ぬかボカシの効用 G8 理科 光合成
- 米ぬかボカシ作り G6 理科・社会科
- 「お米パーティー」・「米粉パーティー」G5・6 家庭科
- ピザ窯でピザを焼く G6 理科 ものの燃え方
- 福住産の間伐材の利用 G5・6 社会科・理科 ピザ窯の燃料
- 生き物の観察 G3・G6 理科 昆虫・プランクトンなど
- お世話になった方への招待状・御礼状 G5・6 国語科・図画工作科
- お米のパッケージ作り G5・6 図画工作科
- 「こどもエコクラブ エコ活コンクール」への壁新聞の出品 G5・6 国語・図画工作科
- 「こどもエコクラブ エコ活コンクール」へのデジタル作品の出品 G5・6 情報
- 福住産米の学校給食への提供 G1～9 給食指導
- 福住産あじまるみ大根、福住産ヤマトルージュ、福住産三年晩茶の学校給食への提供
天理市全小中学校 給食指導

＜その他関連事項＞

- 天理市の「大和高原 福住村プロジェクト」、「オーガニックビレッジ構想」との連携
- 旧山田教育キャンプ場再生事業（三年晩茶の収穫・焙煎、植樹・間伐、薪作り・炭作り）